

Linux デスクトップの普及を支援する ヘルプ PC プロジェクトと将来展開

2007年9月13日
株式会社三菱総合研究所
情報技術研究センター 清水 浩行

なぜ、何をしたいのか(1)

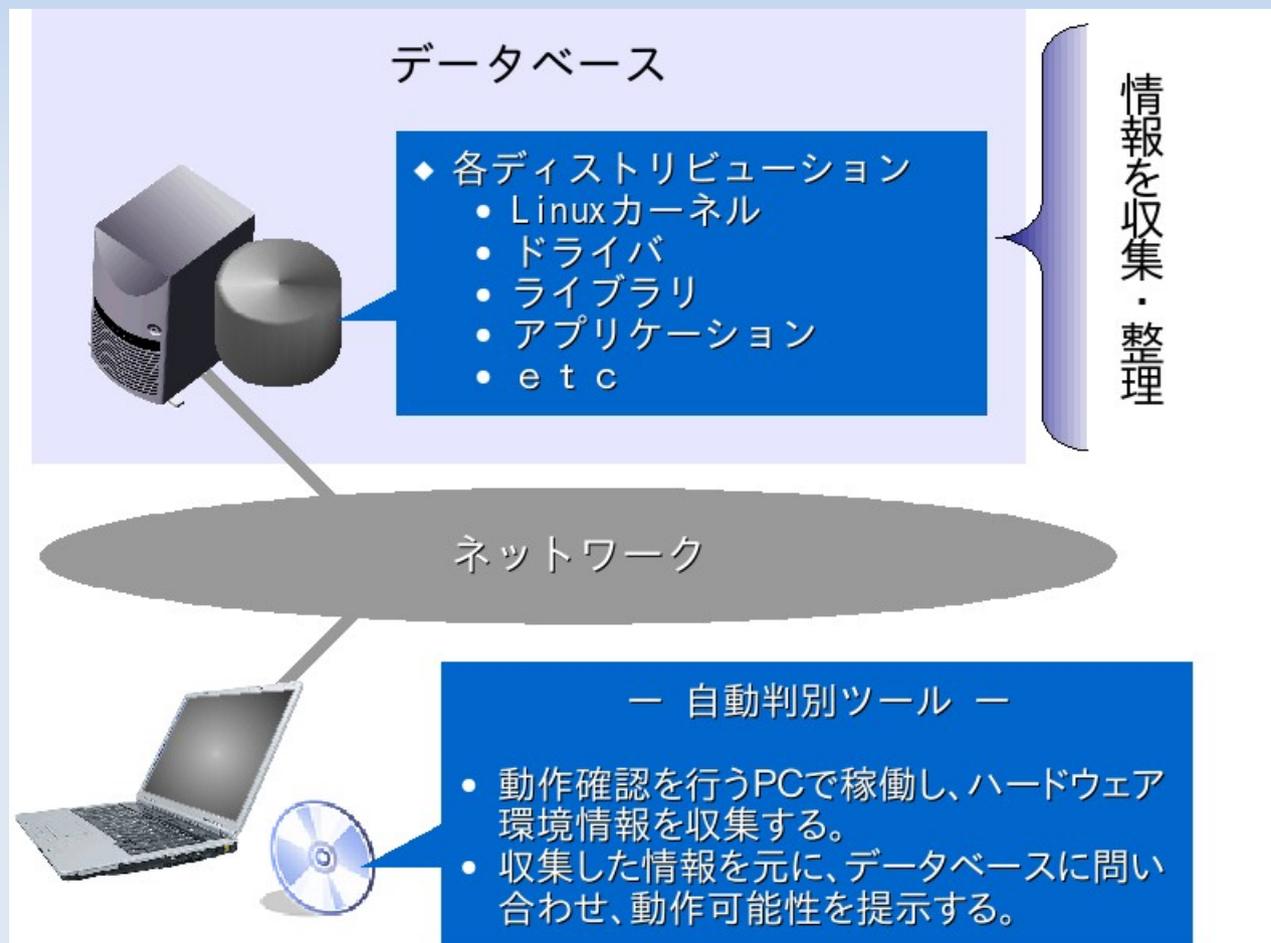
- 背景
 - Linux のデスクトップ利用がなかなか進まない
 - サーバでは Linux のシェアはだいぶ上がってきたが・・・
 - そもそもプリインストール PC がほとんどない
 - インストールしようにも、情報が、まちまち
 - HCL (Hardware Compatibility List) がネットワーク上に散逸している
 - デバイスの対応状況もよく分からない
 - デスクトップ利用では、周辺機器や H/W の情報が多様
 - Linux のデスクトップ利用を推進したい
 - どうすればよいだろうか？

なぜ、何をしたいのか(2)

- HCL (Hardware Compatibility List) を集積したい
 - DB 化して、下記情報に関する利用可能性を提供する
 - ハードウェア、ディストリビューション、デバイスドライバ、アプリケーション
- DB への簡便なアクセス手段を提供したい
 - ハードウェア仕様の自動検出ツールを提供
 - CD ブートで H/W をプローブし、DB へアクセス
 - 利用可能 Linux、デバイス等の情報を提供
 - DB は、インターネット経由でもアクセス可能
 - コミュニティやユーザからの積極的な情報提供を期待

どのようなものを想定しているのか(1)

■ 利用イメージ

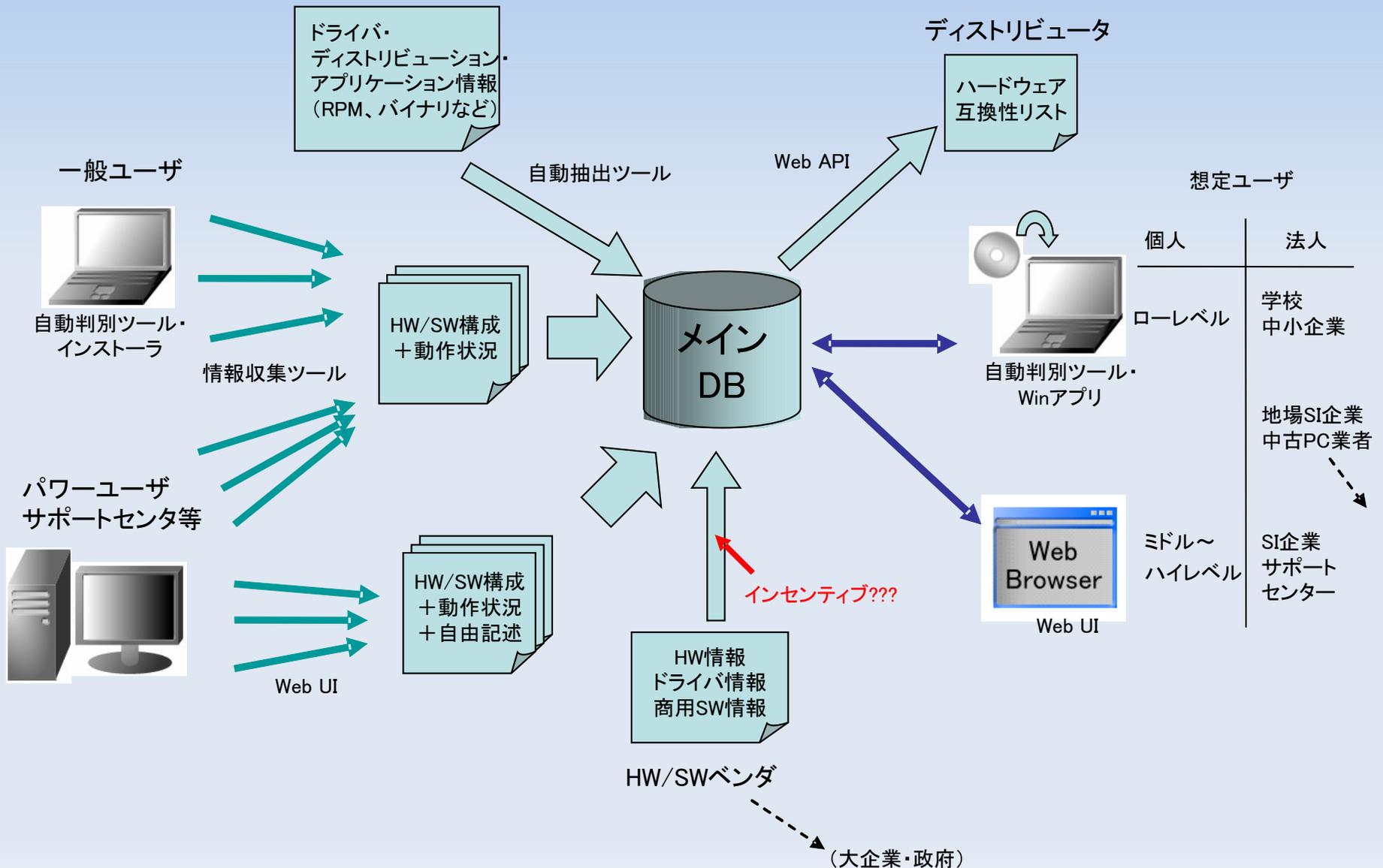


どのようなものを想定しているのか(2)

- 「どのハードウェア・どの周辺機器はどの Linux で動く、動かない」という情報を DB 化
 - ベンダからの情報、ユーザからの情報(生の声)をいずれも収集
 - DB のインタフェースは API を整備して提供
 - 自動検出ツールもその一環と考えられる
 - DB の情報を利用したアプリケーション開発も奨励
 - 各ディストリビューションを巻き込んで世界的に連携させたい

使われ方のイメージ

(入力系) (参照系)



プロトタイプの実験

- 現在開発中のプロトタイプの実験
 - 表示方法等についてのちほど議論を...

議論のポイント

- 自動判別ツールの動作、情報提示方法等
- データ提供・登録方法
- ユースケースと本サービスのターゲット
- 本サービスの普及・運営方法

- 時間があったら・・・
 - Linux デスクトップはどうしたら普及するか？
 - などなど

ツールの動作、情報提示方法

- 自動判別ツールの動作
 - そのもののあり方
 - CD 起動型、USB 起動型、Windows アプリケーション
- 情報提示方法
 - どこまで見せるか
 - ノービスユーザへの見せ方と、ハッカーへの見せ方
 - ハッカーへの情報提供、必要？

データ提供・登録方法

- 大前提：データ登録負荷は低くしたい
- コミュニティからも情報がほしい
- データ投入の自動化方法
 - 現在開発中の自動化ツール
 - RPM や deb 等、既存情報を最大限利用
- 人手による入力をどこまで期待できるか
- その他の工夫要因
 - API の整理 (入力および出力)

ユースケースと本サービスのターゲット

- 想定されるユーザ
 - Sler や周辺機器ベンダのサポート担当
 - リユース PC 事業者
 - エンドユーザ？ システム管理者
 - コミュニティ (カーネルハッカー・ドライバ開発者)
 - 情報機器担当
 - デスクトップ Linux を使いたい
 - (何らかの理由で) デスクトップ Linux を使わざるを得ない
- どこをメインターゲットとすべきか

本サービスの普及・運営方法

- コンテンツのメンテナンス、サーバの維持管理
 - 最低限の人的リソースが必要
- いくつかのアイデア
 - The Linux Foundation
 - 日本 OSS 推進フォーラム
 - 会員組織を結成
 - コミュニティ運営
- 類似事例
 - SMOLT project, DistroWatch.com, etc...

ツールの試用と アンケートへのご協力をお願い

- 会場にて自動判別ツールの CD を配布しています。
 - ぜひご自身の PC で試してみてください
 - ご感想を <http://oss.mri.co.jp/helppc/> にお寄せください

ご協力をお願いいたします。